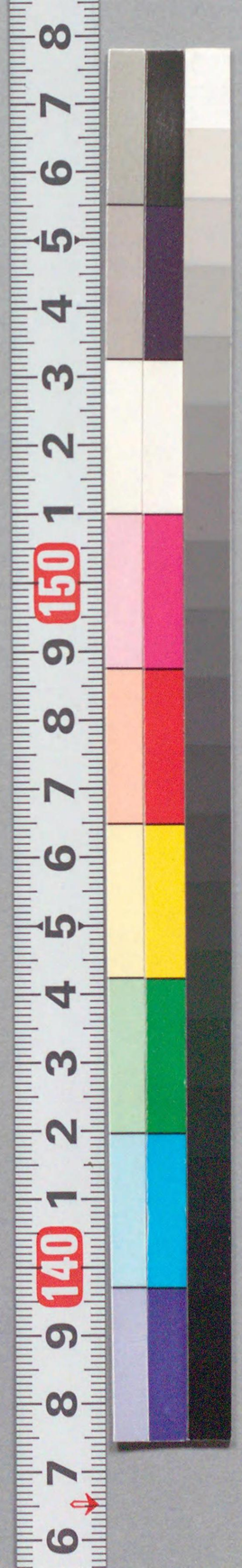
国立国会図書館　　狂歌初心抄 208-137



ガラス使用

208
137

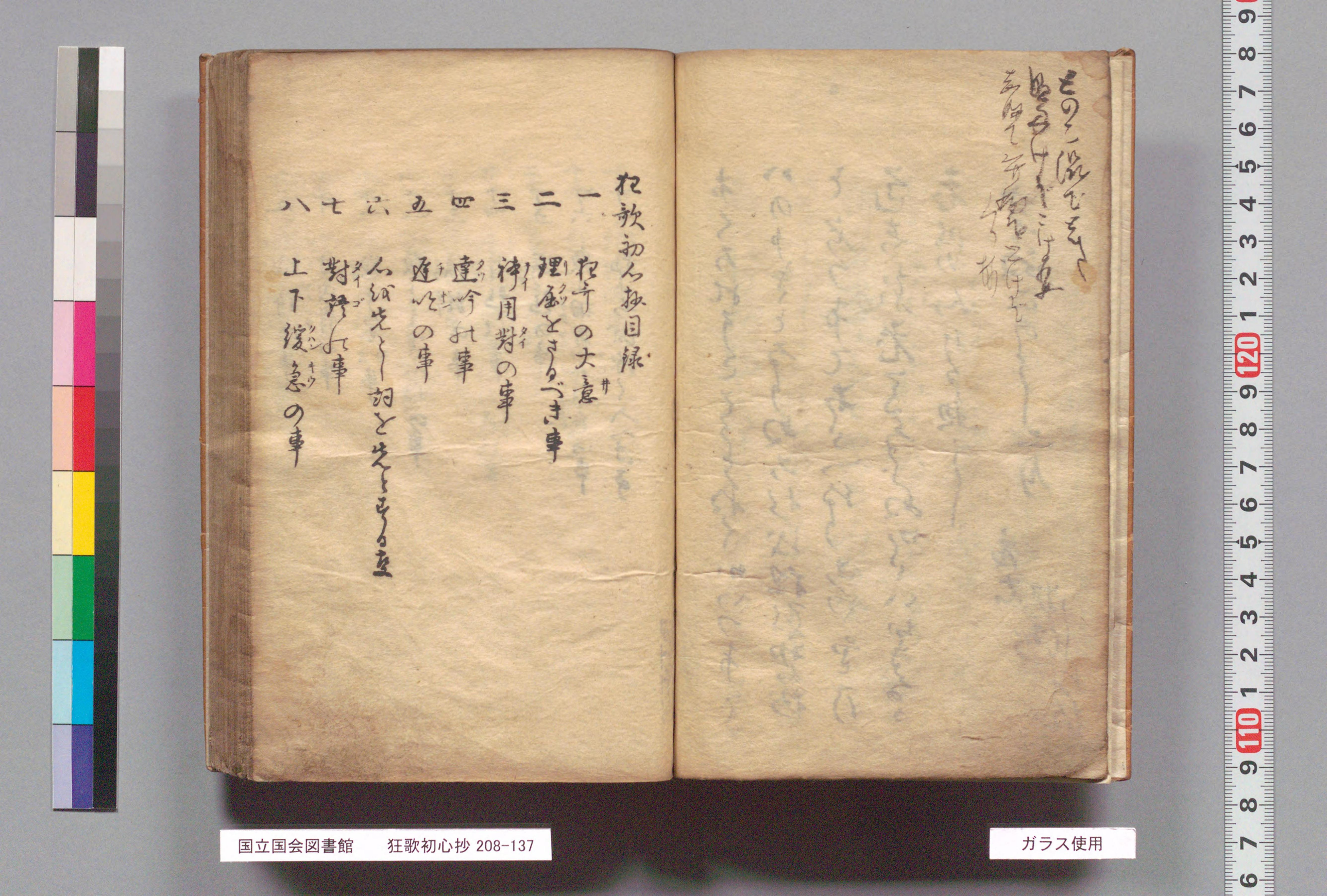
国立国会図書館　　狂歌初心抄 208-137

ガラス使用

牛溲馬勃敗鼓の皮まて貯へ
用ゆるを良医也と何の何某乃
哥歌の道まてよろつをとて用ゐるは
狂歌師也されと本歌の本説よりよしや
されは前句の泥塗に前て風雅の
かくは出まし　いやしや狂歌のさくる所
ものは臭き将水はを亀ふおのこ人きた

国立国会図書館　狂歌初心抄 208-137

ガラス使用



[illegible]

狂歌初心抄目録

一 狂歌の大意(井)
二 理屈(クツ)をさるべき事
三 神用(タイ)對(タイ)の事
四 達吟(クツ)の事
五 遅吟(チギン)の事
六 人の先とし詞を先とする事
七 對語(タイゴ)の事
八 上下緩急(クハンキウ)の事

国立国会図書館　狂歌初心抄 208-137

ガラス使用

九　風体の事
十　皮内骨(ヒニクコツ)の事
十一　題(ダイ)とりとる事
十二　題よく方へ得の事
十三　傍題(ボウダイ)の事
十四　片題(ヘン)の事
十五　落題(ラク)の事
十六　題に相應(サウヲウ)不相應(フサウヲウ)の事
十七　題に心ぶ深く入へきす

初心序三

十八　結題(ムスヒダイ)の事
十九　題ぶおもんせてよむ事
二十　悪のうゝ事
廿一　述懐(ミユツクハイ)、旧哀傷(クハイキウアイシヤウ)の歌(ウタ)の事
廿二　贈答(ソウトウ)の事
廿三　禁忌(キンキ)をさるべき事
廿四　歌の病(ヤマヒ)の事
廿五　字余(ジヨリ)の事
廿六　歌の袖柏子(ホドヒヤウシ)の事

国立国会図書館　狂歌初心抄 208-137
ガラス使用

廿七 秀句(シウク)の事
廿八 隔句(ヘタテ)の事
廿九 歌合の歌の事
三十 歌をかきるゝ不ある事
卅一 名ほの事の事

以上

狂歌初心抄

大意

狂歌よまんにハ先ッ大意(イ)ハ失ふべからぬ大意とハ風流と
おかしきなり是かと狂歌も和歌の一躰(タイ)にして萬葉集(マンヨウシウ)
にもむかしはとると川へちかうれちかとの事あり其
外世にハ撰集(センシウ)にも狂歌めて歌あまたあり誹諧歌(ハイカイウタ)てふ
りの其(タグ)ひちかるへしさるハ狂歌を記とへさざれたる
このとゝ場又ハ曲節(キヨクセツ)にかゝらしてあらぬ元歌(ラクシユ)
とする事おほし其一二ハいとて(コノコロ)ある人の事を

国立国会図書館　狂歌初心抄 208-137
ガラス使用

うれ女ハ色も情もきみぐのそりやうに深くゆかしきおもひの深
挑灯て鑓ほ深く成ほさつりや祢かとハまれとかなみ老の身
二そとりにさくらにハ又く依れてえりゑのハ襟かとしに
深くあるとむいやしく後のハてきちんと偏よりに俗中に
俗なり白楽天の詩ほ白俗とて于鱗が選にハのらし
されと故人も楽天の詩ほ俗にして俚なりと嘲
美し家関れもうしハ楽天の詩ほこくに欽慕し
よまれしなり俚を鄙俚と深くきらいやしとまて
狂歌ハいうにも和歌によまぬ俗語かく深かるを好みて

楽天か俗にして俚ならんとよふ深肝要なりおかしき哉
よまんとて戯場外道のことくハあるまじくも
おかしきある哉

あぶにもまずしひはるゐもの床にてもえぬる歌法師に
よき人もなし　西行法師

きぬくの東まくらにくく腑を病る世のさかりそかり
君か今宵床なれハ立てあるゐ命を病ハ思ひぬるかれ　石田こんく

をこしもおかしくなきにも秀ハあり結解をとけハ
和歌にも十体もその余もあるべし
理屋紙さるべなる
一 詩も痴情紙(チゼウ)ふとく妓女(ギヂヨ)などのいうにもかしこくみゆる
中におろうにあどけなきほ(トコロ)あるが恋敵(アヒケウ)ありくらうさは
ことく思ひにあどなほうほ風流にてこそなりとて
あしろの山のあ物にはむ人はまさでや秋の月紙ゆるさん
山のあなたにはめぐとていつも月のあるべきやうなし
さるに月詩者にいつも山よりも出るものにおもしまにより

初心抄 二

山のあ物にハまさて月見るさんとおもひやりたるとて痴(チ)
情(ゼウ)にくおかしろし
其所にはなれなくしおよりあるべき年うきものハ物
これも逢世(アフテノヨ)実恋(ジツ)のあなたなるよし和(ホイ)をなくらうれしつれ
なきに心もなきあるべき祇うきものハなしとよめる
足も痴情なりことにけあり明のあなた古今(コキン)第一の歌と
乎仙も沙沽しさなひしなりとなく理屋紙をなれたる
ところなりてハ秀(シウ)逸(イツ)ハなし宋(ソウ)人の詩ハ理屋(リクツ)なく
風流に遠しと詩話(シワ)にあり

国立国会図書館　狂歌初心抄 208-137

ガラス使用

而れあしあれは今立それなりは[illegible]ヒルマ[illegible]
あれ理屈なりさりとて理はなりらぬは言にあらはこれ
さりひよくく後に味ふへし

裤用對はる

一 言ひ一言よめるに此裤用對といふ事ぞこゝへし

衣ハ裤なり

ふしは きるこゝろ うさぬるハ用なり

裳ハ裤なり

なく 楣(コスエ)こうつる やとる あつてふハ用なり

初心抄 二

弁ハ裤なり

ふぐ うつる 法なくハ用なり

對(ツイ)といふハ

衣ハ裤

袖(ソテ) 袂(タモト) 襟(エリ) 裳(モ)ハ對なり

弁ハ裤

楫(カチ) 帆(ホ) 掉(サホ) 笞(トマ)ハ對なり

ものことに此裤用對をもて考へし

拍(カヽエ)字のこと

国立国会図書館　狂歌初心抄 208-137

ガラス使用

国立国会図書館　狂歌初心抄 208-137

ガラス使用

国立国会図書館　狂歌初心抄 208-137

ガラス使用

国立国会図書館　狂歌初心抄 208-137

ガラス使用

後かと思ひ行とに一詞を出とすべきものと作るハ又人ハ
次かと人也不給なほあるへからさるなり陸士衡か文賦に恒
に患に意不称物文不逮意蓋非知之難能之難なり
といへるも尚まことおかしかるへし心に風情を得るも
もかくに風情を得て詞をなしなりもかくまた不給
人のいまたよまざる風情をやすらかに艶なる詞を
作らくへきもしらあれは心ことをとりにこゝろくし
得がたくことを作きたるうへとをあて案をれは
さしかに出来るものなりかく案しても一ともよまんを

初心抄七

しかし誓古とハ中へきなれ古迹とハ初入と
実に難し難に由く退ハ何の時来んといへり何
るのかも金言なるものを相当文記しきりしなる
相当を知れ先とするなるなりしかし和歌も雅
英門にある人人のならいぬと詞のならいぬ
いかれと伺ひ得りしにゆ心をはそこなれ
ならいぬハまだしもなりんのならさらんハ尚
あらんと作ありしとをとくんとかとくし
さしいかにも詞とかさらとよ心へきにしや

国立国会図書館　狂歌初心抄 208-137

ガラス使用

国立国会図書館　狂歌初心抄 208-137

ガラス使用

国立国会図書館　狂歌初心抄 208-137

ガラス使用

千ハ五人れあやめこれをこれにしたるやうに奇麗（キレイ）
にすらくとよむ是はよし古来ハ[illegible]
和千ハいうにたくしにくもつ度うちきしくそれぬを
あしいとしるべし
お載（セン）に翁（サイ）[illegible]（タチアフヒ）[illegible]
初めとくるゆゑにあらるゆゑ[illegible]
恵体あまりに[illegible]
[illegible]
何の周泉（イヒクハ）[illegible]車[illegible]

初心抄 十一

此字上の句めくりくるまれ[illegible]
[illegible]
[illegible]
骨の体をとるゆゑ[illegible]

皮肉骨（ヒニクコツ）

皮　長高体（タケタカキテイ）　見様（ケンヤウ）体　幽玄（ユウゲン）体
肉　濃（コヽヤカ）体　有一節（アルヒトフシ）体　面白（ヲモシロキ）体
骨　拉鬼（トリヒシクヲニ）体　有心（アルコヽロ）体　事可然（コトヘキシカル）体　兼（ウルハシキ）体
[illegible]

国立国会図書館　狂歌初心抄 208-137
ガラス使用

なかれと祥ハさゝめくあるべし中まも皮肉骨をあり
きなり

和歌

皮

心ひ川さえは浴るゝ所は泡(アハ)れうるゝ人をあいてきくしやや
おかふるのなとゝふ人のなかるゝんあふけハ宮に月をさやけれ
粉(カリ)くしかる野は青(マシバ)紫(ヨリ)打ちはて淀(ヨド)の川瀬は月ばかりなる

肉

なかめしひぬ秋より外の岩(ヤド)もかれ所にも山も月やとしらん

初心抄 十一

さゝゆり又もきてうえん松蔵やをしゆ月は笠(トマ)屋(ヤ)浴(ナミ)にあらはれ
うらしまる人ばかり川瀬の山風(ヲロシ)よ刻(ハケ)しかれとハいのしぬ物ば

骨

武士(モノヽフ)は矢なかるゝ浴くらふ小手はしまあれさびしる那須(ナス)の志の家
浴の園は籬波(ノニハ)の垂を夏なれや芦(アシ)の枯葉に風なるゝ
根(カキリ)あれハなかめば持川(ヌテ)夏衣(フチコロモ)をてなまぬりのハ涙(ナミタ)なりけり
心ゝ孫妹(イモ)がりなけハ冬は夜の川風さゝしちとゝまなくなり

和歌

皮

国立国会図書館　狂歌初心抄 208-137

ガラス使用

あのごとくも世は越路(コシバ)へ帰れし冬とそあしのうらに住とも
酒はたゞの手柄はさ刀の浦さひしこれはあし沼風そこれ
そこあれ上戸の者の板底(イタヒサン)酒ゆりうちにかゝる時雨それ
千金にえじとせ去の日も一寄りにちかつたにかゝる
すくしさ御世(マキコシ)迎て来る春月は一葉の風のちらし出なり

肉

祖父(ゲ)の山へさしげしう花に方花をむしくの嘶(ハラシ)出しき
色に浅く人の心の花うるし跡をけやそきけのまぞありかゝる
ある都の源氏の中にんさるはたるの赤きや平家なるんん

初心抄十二

きよりてきけは鶉(ウツラ)は稲も高し人も嫩(ヨク)にふかるものかは
岐五妓女(ギワウギヂヨ)をもちゝる味はあれ戸なは仏(ホトケ)ぞかりぞおりましける

骨

傘(カラカサ)はさしたるとがはちかれも人にたゝれて面にうるく
庶幾(ハイフキ)はたゝく和鶉(クヰナ)の音(ソト)はしきせるのらうの嫉妬(ニシカヨ)の母
あなたてのわりをもたる筑波山連(レンガ)の名は達(タツシヤ)なれども
貧(ビンボウ)気は和を入じと戸をさしてよくえれは家男なりけり
ぶれ身てに寝(フヨヒ)は家をさしめ鶉(コロ)せあふにうんといひし命を
ゆう梅をこうちの棲(ツハキ)うけとゑて花の命はいけて往たれ

国立国会図書館　狂歌初心抄 208-137
ガラス使用

国立国会図書館　狂歌初心抄 208-137

ガラス使用

古人も題を得ては仏に讃嘆(サンタン)するかとくそといへる
為家の師に題を得ては起とく稽古するやうに
どちくも蔵ぬ事なれば山つしと又師に云を作れば
塔(トウ)なれば山とく下の句よりさくらちるやうにけつし
と云凡(ナヨソ)題の文字の中に実字あり虚(キヨ)字あり或は
題のかなれば一そにまいしくよし題ありまいしてあり或
題ありあるひは題にお意不お意ちるあり
一八雲口傳に題の字おかく作れと必しも字ことに
よく入ましきもあり此題にハ何の字とも詮にく

初心抄 十四

あるつきとみるけそくて添入字ことに挿ましきもあり
と云云字ことに添入ましきもあるとくは季陽(キヤウ)
己閑(ステユタケナハ)といふ題ハむつかしく耳ゆれと著者れんまておけ
二星適逢(タマくアフ)といふ題は七夕の年に一枚あふんまておけ
商律(シヤウリツ)欲盡(ホツスツキント)とあるハ著秋の心をよみそせおもしろあり
文字ことに挿ましきとハ池水手氷(ナカハ)遇(コホルアフ)不逢(テルアハ)恵依(ヨツテシノブマス)恵増
恵陰(ノリンラゴニ)頼(ベシス)変(ヤクヲ)恵等(ヒトシク)思当人恵これられ題あまたあり

実字を
殘(サン)花(クハ)何(イヅクンカアル)在

清輔

国立国会図書館　狂歌初心抄 208-137
ガラス使用

白雲にまがひし花や殘れるとうハの空にも見ゆく小
うハれ宮にも工何の字あり
を萩　為氏
うて森の根まれ秋風高してて枝にちるく座れ萩ちる
まちらにちるくこをの字あり
依忍増恵　公經
忍ハしよみる傳ひの谷川も淑をせくこれ所増りかれ
淑をせくこ依の字あり
虚字

初心抄　十五

一虚字とハ文字ハ出ちるすてて不下詠文字ちるを
野外ノ霞（ヤガハイカスミ）　海色ノ雪（カイヘンユキ）　池上ノ花（チーフチ）　雲端ノ雁（ウンタンカリ）
外色上惜いられもまてくよまぬし
此外あまたあれ不及ニ續所
難題を
除期ニ変（ノソンラコヘンス）　紛恵（ヤクヲ）
ぶひきや榻（シチ）のもしかれおきにあて百夜も同し丸（マロネ）寝せんとハ
後朱
相所　楊洲
今さらに雲れ下帯引しあらく月の清（サハリ）れ宮ごとそうは

国立国会図書館　狂歌初心抄 208-137
ガラス使用

等思(ヒトシク)当人(ヲ)悪

右大臣

いつくも取りけんなれはこりもあさにこゝろにまとゐる家分とも有

相手　橘洲

こりもしやぶふ所なりも次ナ所にもあらふ教庭を這ひてる事ハ

池水(チスイ)竿氷(ナカハコホル)　後京極

池水にいかに嵐れ吹らけくこゝわれる程のこゝわらさるらん

相手　橘洲

これくこ池の人れ守られてたる氷ありこ川波もあるを

僕かしこもあき相手をとそ侍るハおもなくそゞかるを

初心抄十六

おもはるゝまゝりしに此頭の家外に見なひ侍るのハ

世被知人の人今にはかしとさそ侍るにもあん

傍頭(ホウタイ)の事

一を代風体に傍頭とゆるハ頭のものにてしまくてこゝものの

とよみそふるをゆまり又多数のまゝ中に同のものの

あるをも傍頭とゆゑ三首あそれ頭にハ嫌(キラフ)べし

百そもしの時ハ雲りはこやしのものハ集落も不苦とも

侍り悪問望に云傍頭とゆしすふるくハ頭の外にこゝものの

と添加(ヨミクハ)へたるものとをゆしたるなり頭集云集の歌合

国立国会図書館　狂歌初心抄 208-137

ガラス使用

国立国会図書館　狂歌初心抄 208-137

ガラス使用

国立国会図書館　狂歌初心抄 208-137

ガラス使用

国立国会図書館　狂歌初心抄 208-137

ガラス使用

国立国会図書館　狂歌初心抄 208-137

ガラス使用

蔭題の事

一蔭題とは題の景物をよくしたしく又眼目とよむべき文字をよくしたしとしたるは云々

但題をまはしくよみ或はいはゆく詠る詠括

蔭題にまりふりのしよくくんは今し

一八雲御抄に云經信敷沈居といふに定るなりとよそて用ひ沈侍頼は兩様無事に清芽生とよそて野を用ひ野真にすれ志の屋といひつれあり岩家は此のきちの様なとよめるは真家風はこやはなり

あれかち題はよしとは世にこれをきしとも言ふ意りの蔭題は一定ありぬ所にすくよくおりひらく居しと云云

題にお意ひ不意なり

一知題抄に題は必ずしくまはへまとてふるくよりよまぬるはんはあるべしとくに郭公なとは山野は蔭ありきし年しんばよ山常なとはまれ門ろうはよめともしつ様くきくんはよまれ庶れ称なとはきくよりのんはそくあはれなるましき

国立国会図書館　狂歌初心抄 208-137

ガラス使用

国立国会図書館　狂歌初心抄 208-137

ガラス使用

祝

君の代ハ千代ともさし天の戸や出る日の限(カキリ)なれば

花

さく花うき方にうつる例(タメシ)あらハいきてこのとハ心さしまし

紅葉

古今にとふ人あらハ紅葉なれちりなん後をまてと言(コタエ)よ

哀

いきてよもあはれ人ハつらかしけ夕まる代とうらと下し

一字題のもの

一字題とハ重ね事 事自花雪又部云

紅葉なとも一字題也

京極黄門庭訓抄に一字題をハ幾度も花を下句にをくなり上の句に花をいひそしてハ下句に題の心よりくなる故也を本風体抄に云文字も古くなくやはくとある題とハおしやうありけに

よくしなれば重しとも云

霧といふ一字題に

清輔

重田(タツタヒ)姫(ヲ)かはしの玉の緒(ヲ)をよりけれ乱(ミタレ)てけりとみんなるもしらず

国立国会図書館　狂歌初心抄 208-137

ガラス使用

以前一字鈴の手本なりとも

結鈴の事

結鈴とは鈴の文字三字四字五字なと
あるしたくへと和歌叢書中に日
なとせられるし

鈴は己うちよむへ給ふ

京極黄門庭訓抄に云二字三字なとは鈴は
字は甲乙にとりち蓋(ヲリ)へし結鈴(ムスビダイ)を一所に行く
るも無下のものに侍りと云云何佛口傳に云鈴は

初心抄 廿四

文字を上れ句にこれよこれて下の句にいふ事の
なきにはこれなるものとも鈴は侍りけるいとも若
しとゝへてはあるへ山家卯花といふ鈴にて山里は
埋れにさける卯花にとよみて末に何と読へし
ともおもへらはさもはるせんこきかへぬれるに
地にそれと読てゐるいとあしくなきと云云
これまてなしくしるへし

山家卯花

法にくくる人もなき山里に家のこゝろよしさける卯花

国立国会図書館　狂歌初心抄 208-137

ガラス使用

国立国会図書館　狂歌初心抄 208-137

ガラス使用

一 惚目(コツモク)抄又云 歌には字は根葉の文字とて二字ある字
四字五字あり 歌によりてよむ也 つまる文字諦まき文字
まじくなをよむ也 つめる字まへとよむ也 はね文字
ありがよくよみえよむ也 はね字は何まり 事
よむ也 此文字を唯あらんに讀べきばまりしくよき
ふくもんくけくるくきてある所云 古へは
ちはふくもと讀られしを後の人はあそび給ふ
なれこしにあられたる人はくよむ也と云々 云
題をとまりしる事

家々立春　　逍遙院
誰里もなほやおとけるにしくあつまるる春にりて
誰里はかく家々とまきしるらむ

静見花　　太上天皇
見る花も花の根の花さかりまほらんくちの方そるあれ
あなたもあれにるなんちるこぞそみまほしき
静かくあり

五月雨久　　伏見院
ふるさんきのすなれ数ききつけにしをうちぬ雨れ中さるある

さつきの日数さまりしこえんあり

遠近秋風　兼季

吹きわり外山に近く秋風に新たの初もみあらはし

外山に遠人のきたにをたあり

鹿声高方　足通法師

高城みの小萩の原を行わしは鹿の音をさへ引けくきくに

鹿の行かけくきくに外に高方あり

雪海群山（ニツジンサン）　雅經

隠くれ山を山をしなべて残るうけなく隠れる雪の外

れ山をけ山に群山残る隠れる海の雪あり

進日増恵　院

恵さるかふの涙にくらふれはきのふの神はぬれし数かは

りふれ涙きのふの神に進日増あり

竹の徒色（カミヨク）　當氏

百家にせきふ竹の数ことにからぬ千代の色をそんとする

かけらぬ千代の色に徒の字あり

沙千あまたあり此数をかくしたるべし

数をいふ也とく詠なり

国立国会図書館　狂歌初心抄 208-137

ガラス使用

心やすくよむくおもしくよむと大きにはし
すなはち歌のかのほこふしに面白しく
一そんにまりてせんのふしぶりあるべく
一惜月放鳥ちの秋のよくこよみなおは耳ちにおもはるを
よみしきよふはふハこう読ゆるんとてよみせば
以ふるまあるへし　云云

落葉浮水　資宗

戎ちよまてまのよんみなをいうろうを吹嵐のあらしかな

月出み　紀作

きむ人をはかるあきるおち者あそしあまお月のかりときなきく

待郭公

五月雨くふり出てあふけどもへよあそのあるおお初物おしみるん

此外あまたあるとも

其外古今の事

八雲口傳に其の歌よりも空ておふれとたまなるべし
うるは植の下まうしらくあれとむ採ち不二袖ハまよゐちの関
あれやとも心ふひの中へなる風情読いちんとていう極る
よむへいらんと四季の外まふしとなるへし　四季の外まふ

国立国会図書館　狂歌初心抄 208-137

ガラス使用

祈もせく事ばかりしてハ妻れものとてあるべくし侍
の手にんをあしてよむべきこと又ある人とふ意れ鈴の手
男か女にあり女か男にありくよあるハあしくやと言く
女か男にありおとこか女にありてよむ常れるあり
いはれにも悪に切あるさらばよむべきあり　む
語手に及ひ

宇意の事

初心の人寿悪ば何にある悪とよむあしくよそる悪
む悪にうきるに宇自迷懐宇花懐旧いはれも同し

わと宇といふ字合意のゆゑゆへありける初心の人
とりく宇の字合意ゆゑゆへ古手ちと知れく
きり楽侍れと相こんね良まれを小ゆれ童謡に
それハ見ちるに掉さしやとしくあせにとらうね家忘ひ
されに宇掉悪あり
君ハさんやの三日月さんよ雪にちらうとしているを
見寿月悪ありといへる初くよしるの心ばえありとて
見らひ侍りき

宇風悪

文門仁

国立国会図書館　狂歌初心抄 208-137
ガラス使用

きくやいかにうハの雲なる風たにも木の葉なるおもひありとハ

宇雲恵　　俊兼公女

下かくにいひしまんまん煙たにあとなれ雲れてそ思ひき

、草、　　為氏公

かれ稱たそその名もよしやさのふ草ふにまけハ人もしそれ

、木、

おもひか稱諭なれまた名目さしき斬橋の園の松もうらめし

初年

、猿、　　行風

きくやいかに木の雲ほたふ猿たにもけかにハ落るなからひありとハ

草原　　玄康

おもひきや日向れ人にあひちかりて伊勢物の御ほかんそのとハ

、刀、　　沙煙奇

接えにまぶかくるかと思かれるもいもか心につかれたへせぬ

、稲妻、　　朱楽芳江

さいらくも夜床に心をそえさるハ家妻なしぬいな妻そうし

述懐、旧哀傷の年の事

幽奇聞去に述懐ハおもひをのかるといふ事なれそ

国立国会図書館　狂歌初心抄 208-137

ガラス使用

詩道につきぬ人ゆゑつし述懐千とて余りうらゝ知れ
いまくしきのこゝろへかたは求れ人におくれ求れ為とつに
うれひある人の述懐なとは各ゆゑ此のまてかゝさく
あまりなるはこゝろし俊成の述懐百ゑ不法にも根
まも得たはいかにいたんや為にとりて悪(ウレ)ひなるに
人詞とのをたはいまくしきすらいなるゆゑ志かゆ
へからさるゆゑ述懐にとりてくす神のうち紙いたる唯
ゆゑ心神にて待るへきよし黄門庭訓にはしらせり
哀傷のうちの事 薤露(ガイロ)蒿里(コウリ)といふものあり 別換(バンカ)千の

ゆゑ 柩(ヒキ)をしらくうたなり 薤露(ガイロ)といふは王公貴人の死去の時 那迦送りに
うたふ所なり 蒿里(コウリ)は士大夫の野送りにうたふ所なり 換千は
茅葉なとにもされあるを悼(イタミ)の千のゆゑ尚座の悼の
所なとは時にのそこてともかくもあるへしそれも余り
まものゝ所しくもくはしてゆゑともよほ所はさしを
かはんをしらしとおもへゆゑ 蛾河(ドンア)のうけるものにしてる
をしらし 返答なるの千は詩を説をるゆゑ 俊成
述懐のうち
いかにせん 渉う園生(ソノフ)のおくの竹こゝきこゝしるも世中をそ

国立国会図書館　狂歌初心抄 208-137
ガラス使用

家隆

大かたの秋のねさめもありあけのさゝの露いのる方としらて

同

和歌の浦や沖つしほあひに浮出るあはれ我身のよるへしらせよ

為家

玉津嶋あはれとみすや我かたにふきたえぬへきわかの浦風

定家

若のゝよ埋ぬ名をはのこしおきつ和かたにも詠哥の事

右此の二首はよ和哥の道の述懐の哥にて

さしてうらみはなくしては詠はあらしに

後の二首は述懐と見えたり　又

僧正遍昭

三笠山高くそのほる雲まかけ嵐にあれしをまかせて

太仏法隆寺のみねにかくれし初心の学者

方のうたつくれあらはすをその述懐と

いふそ太の哥とおもひて詠たにあるゆゑのさ

励女あるし又懐旧といへるも述懐し

きのふとふかりあり

国立国会図書館　狂歌初心抄 208-137

ガラス使用

国立国会図書館　狂歌初心抄 208-137

ガラス使用

国立国会図書館　狂歌初心抄 208-137

ガラス使用

きれ天の千代に八千代とそこそしも卒都婆(ソトバ)に苔(コケ)のむすめる様や

紫笛

おりふそよあるの詩や猿(ヒサ)の皿ゆゑにハ無きものやおりのとしを

竹杖ゐ鈴ちれぬ心ひにて行りけるとれ

よそて作りしをる　茂江

中へきことのもなしあしそれあれ世このよれ山しれられけ

祖父れ墓に詣く　平秩東作

孫をうふよりれたとへもなけれしくこそなりにせしものこそなり

画贊(クハリヤウ)ゆれ

画贊も題とるにおもやしかるるれし法れと題とるより

きすこしくゆるゆるれるにありことにいく様に雪のあし

らひに きれ(ヤリミツ)なとあるんにとくくよ山ハ論評しりしハ

様をもちるとよそてゆりあちなとハよまてもはのこ絶と

きへきにもあるに画にあるりの四色五色を知らつも残

さくよまんとされんなかうくにしくなるものなり

けりとて山にさくらあるんに様ちるとよそて山をよ

まぬハ蔵(ラク)頭(タメ)なるへし

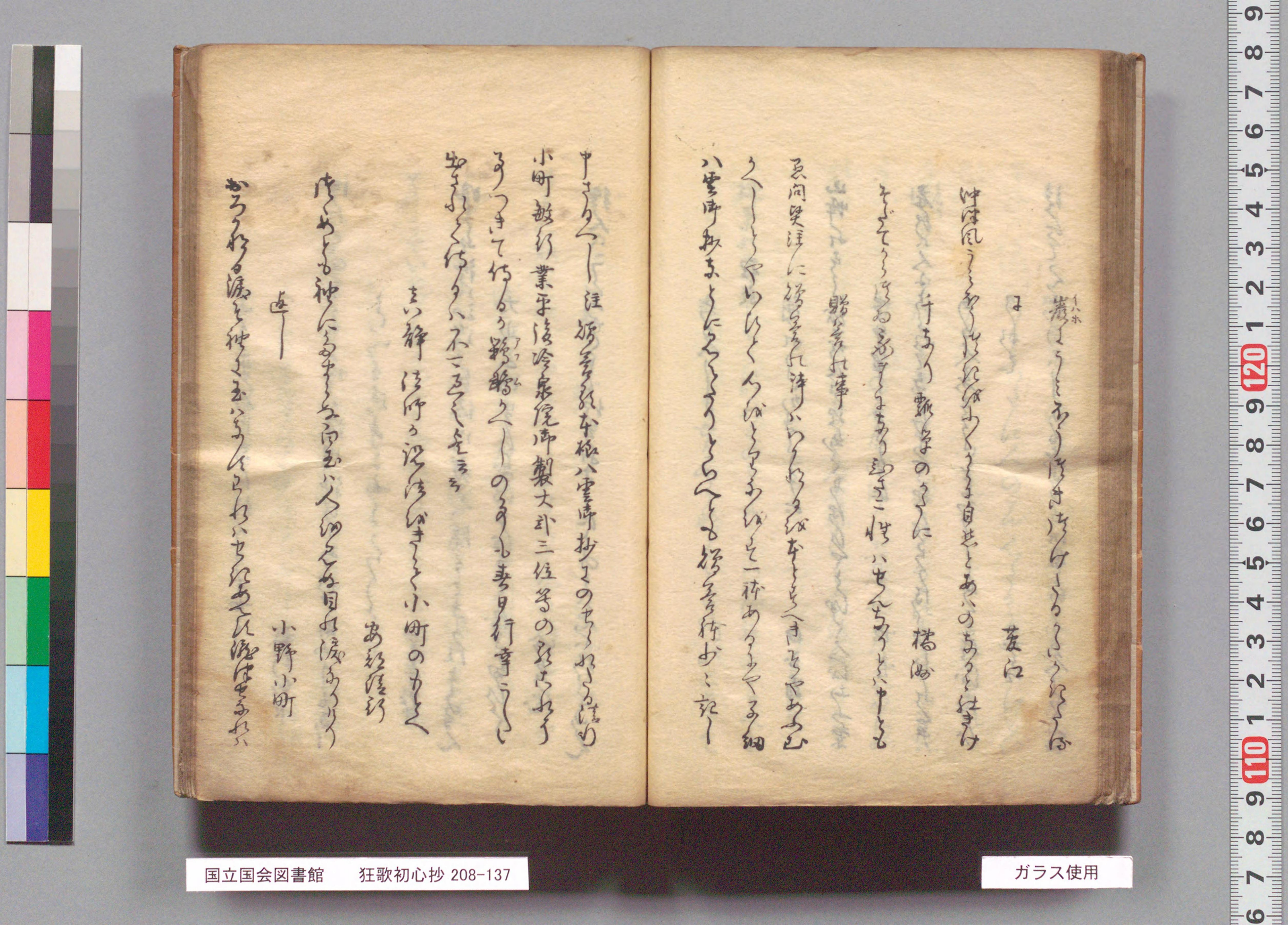
けらやはのみこれまさいのこれ百十の

国立国会図書館　狂歌初心抄 208-137

ガラス使用

国立国会図書館　狂歌初心抄 208-137

ガラス使用



巖(イハホ)にうしこそ有りけれきけるかたはに

は　　菱江

沖津風うちあらければ小くらに自然とあハのなると社きけ

千なり　飄茶のかたに　　橘洲

そぶてからけるゐ家ことなり　しさこ性ハせんなりとハ中とも

贈答れ事

恩問奥注に贈答れ詩ハいかれるゐ本ともへきそやあふ

うへしとやいひくんぱとさまれて一体あるにやる細

ハ雲師抄なとにあらとうとらへとも贈答体少々記し

中さるへし　注　贈答れ本根ハ雲師抄このせられる法師

小町敏行業平後冷泉院御製大弐三位等の所出れり

ありつきて侍るか鶯(アフム)鶯うへしのるも春日行幸こしし

出されて侍るハ不ことなし是云云

去い解　法師か説法ばきこと小町のかとく

あ紹法行

法くめとも神にあまたな向玉ハ人ゆへな目れ涙なりけり

返し　　小野小町

おろかれる涙を神に玉ハなりけれハせれあれ涙中なれハ

国立国会図書館　狂歌初心抄 208-137

ガラス使用

国立国会図書館　狂歌初心抄 208-137

ガラス使用

国立国会図書館　狂歌初心抄 208-137

ガラス使用

行沢 昌金

貧しくて妻すくへ糧なりけるに
よしありけれは定家なれはしく
暁月かたつけのそての虚空地とし打ちさん名をとつたく
返し
定家かちからは徳治ふせんとて石成にかけてこそ申れ
お深白佐尊公へ綻鐸なりとて
昌綏
打よくハ中させ之事へ小刀り牛は角文字にてまたなし
返し

魚は名はそれはあるは三角のありちとつ刀文字牛は角ゆ
泥浩長とりのおくに
玄札
さいかいの功なり息とけ之事ひなは家もてんのさしをしよ
かなし
貞徳
あつそれやう徳功なるさいかいのてんの名は勇退くなり
因駿徳の御とは慈恵僧正門にまいる
之事ひ如し又の陳の徳文いとこしとく
読し之事ふとりかう御簾れ門より
ある女房れ中出されける

国立国会図書館　狂歌初心抄 208-137
ガラス使用

国立国会図書館　狂歌初心抄 208-137

ガラス使用

ウロチ
ミ漏地より世ムロシ漏路に通ふ釈シヤカ迦さまにもらごら毎ハ名と仕きけ

返し　僧正慈恵

いまやいれ出きてもみくまいが雲クリれ見あハ出て交衛も仕せめ

平時稀朝臣

角あれハものゝかゝりて出つしやあ行ふ心まゝ行くとせよ

返し　堅足禅師

をのつゝ角出とつあれ人心あまりとぬれハ出ひあきに

鎌倉進尉れ初ばうけく出立れけり時

銭ぶり　菅宮園師

銭ぶに行をれとハおもひ人とも本来空れ一おもまし

返し　源当氏

一おもまきれ多ハるんとを本来空れ法味ありけれ

とく返ハ中ハうけ家よりと出とうけて

よ出ひまひまひ多ハ鎌倉れ手本ハ

伊勢ものの御ことくものまし師傳

まり相手にされ人の名をとち

ふてよ出す常れるのあるを世様ハ接家

先ハ出のましうとなるのを

禁忌ばさるへきなり

一第一ハ公儀の法にいまして時ばゝ逃遁めれたる事ハ
人は平にても出家はましきなりある人さる
國君ばそしるゝ三四そうれたしてふとこゝろ安の
仲ばその國にておとし其中にうれ平ありて
禁獄せられしなりおそはつしよやみむるとも
おわせけれ法に貴人高位の時ハよむましきなりて
なるく一そもよめはそれよりあらぬ祢しけ平をも
うれ人は他なりといひもてもやさるゝハ相平なれハ

初心四十五

うたくよまぬものと人もしるべき人をもいましむ
へきなり悪体人ばそしほを落そにて相好よあらば
其外喧嘩口論人は時うしなへるのなとよむへるを
人情にあらば

新宅には　火祢　くほるく　ふるく
婚姻には　法る　うへる　もとそ
追悼には　しつむ　うりまぬ

ある人追悼の命に重ありなるに嫌なき雪の産と
よしてしらはれし事あり

国立国会図書館　狂歌初心抄 208-137
ガラス使用

国立国会図書館　狂歌初心抄 208-137

ガラス使用

して後鳥羽上皇は敵（エイリヨ）に沈んひ取ひしなと
ちらさるのあやまちあらしめおそるへき事
なり

新は病は事

愚問賢注云新は世間をさる事は新今には
いはれは病ぬを来たさるにや四病は病ぬ
さのこゝ沈るへなにあらはれ當時きしは病の分
ちるしゆさるへし當座の家も生来いはし
まれ世間ぬ沈るをやくはしくゆさるへし

初心四十七

注云を来たはれこ病沈沈なくは門人病斗
をさるは門事ふるへは家有は是もなま
まてあれなり沈れなれ人ぬまりとせしまに
無字二は此新を又第三の句は終字第四句の
終字門しくは新撰髓（セン）髓（スイノウ）に嫌（キラ）ひくは
清輔朝臣隠竈（シホカマ）は浦吹風にきまそ小くは八十
象のけくのては字此新は此ハ年にくれ
又字はくは終事判ハ栗頭病もなるへんより
ハよろしからぬしかれては此ハ新今の

国立国会図書館　狂歌初心抄 208-137

ガラス使用

さらぬ新も同事ゆゑ毎月抄云病れる年は
病をくるしうしたる事韵病をかさしまほしう
は平ぶ病もあるべしまはおとりしくは四病
八病を人々ゆゑ事をもちゐる事をもちゐる事動かしに
及ばれは天然中国ひにおかれぬ事のあるなり
こゝを何の病もいふ法なるにて有へし法く
よくしらぬ新れたるも病法人有りて又いふ
ましくしそ有りめと云云

四病　表權式　ム病之

岸樹病

夜深くなりそしまるおもあるまの事の下まちへて人しる

風燭病

ふ山出て松半にやきつる郭云あるつきけて老れきこゆる

浪船病

ぞれたにもちてなるぞるなるハいとくふかしまたまし

落花病

夏ましにあはやとふふに人ある床まハ法ふ稱れきりあり

七病　演繹式

国立国会図書館　狂歌初心抄 208-137
ガラス使用

陸尾病

[illegible]

狗尾病

[illegible]

轉尾病

[illegible]

魔子病

[illegible]

遊風病　[illegible]

人体[illegible]

[illegible]

[illegible]

遍身病

[illegible]

八病　[illegible]

同人病

[illegible]

礼思病

国立国会図書館　狂歌初心抄 208-137

ガラス使用

国立国会図書館　狂歌初心抄 208-137

ガラス使用

国立国会図書館　狂歌初心抄 208-137

ガラス使用

国立国会図書館　狂歌初心抄 208-137

ガラス使用

国立国会図書館　狂歌初心抄 208-137

ガラス使用

国立国会図書館　狂歌初心抄 208-137

ガラス使用

国立国会図書館　狂歌初心抄 208-137

ガラス使用

投り附弄基れ須者めれうちんにちうとよまる狂言
はなうしとて語須をよひく切もなしうれハ世上
名いろく業して土風琵師の風ハちかけてうけ
とるものハおかひ出て初日子投るれハうけよしや
ちてよしに切とりもれ請んおうのきゝもちろ須しや
斗ハどつとまれけく大當れよりと笑ひしとそ
是ハおかふに此世中に狂言ハ中輪之初心の歌
もとうくなれきつ須斗ハ名よいれて投るもれ
くハいれ狂をも世くちうとき御れ妙なあれち

又年の月にうちもる歌ハよく世上にハ工夫をそ盛れ
るまありけ第三れ名ちり出ハりきうれ一首ねうち
いたれててん此五尖第一なり

歌合ねうちの事

八雲に御ん歌合ハ奇ふこらしに失錯なく人の趣
しけへうらん事ハ具てよくくみえしけ
もあり哥よもうろきまりもちハ詠へしさいれを
なれ哥をもやへしそ代風体まかんじ様衣
あとの歌をハ歌合なとらんとれ世へうちんと

国立国会図書館　狂歌初心抄 208-137

ガラス使用

国立国会図書館　狂歌初心抄 208-137

ガラス使用

国立国会図書館　狂歌初心抄 208-137

ガラス使用

国立国会図書館　狂歌初心抄 208-137

ガラス使用

国立国会図書館　狂歌初心抄 208-137

ガラス使用

国立国会図書館　狂歌初心抄 208-137

ガラス使用

しきりに来て家業のよそがとしたるは
初心抄は梓行は見いたる云家の三界に
むとしく此書によるものの物詠しむと架
書ひてその徑くとをいふ事
あるいかも良遠に伴て菜園に入り此く
ちかくと酒日は来人ありしに

耕書堂藏板狂歌書物目録

鶉衣 尾陽也有翁述 初りしあまの狂文狂歌をあつめ数句あつめ
前編 全二冊 初心狂文乃こすけとは

同 同作 後編 全二冊 上ふ和歌也

四方あり 赤良先生述 仮名の狂文 狂歌初心の
全二冊 たとりとする

狂歌才蔵集 赤良先生撰 四季恋雜神釈賀等当時高
全二冊 名家の歌を多くあつむる

同千里同風 同作 全 [illegible]

同 [illegible]む杯 朱乗菅江撰 全 上ふとかじ

同故混馬鹿集 朱乗菅江撰 古今集にあらひ四季恋雜神釈
全二冊 慶賀ふの名家とあつむ

同濱のきさこ 光木網著 狂歌影并によりて詞をせんべて
懐中本 全 初心乃たよりとする事なり

同風百首 同作 全 近刻

同落栗草庵集 同作 全 近刻

国立国会図書館　狂歌初心抄 208-137

ガラス使用

画本著聞集 宿屋飯盛撰 全十冊近刻 北尾紅翠齋画 [illegible]

狂歌觴 [illegible] 全

同 [illegible] 風呂 同撰 [illegible] 全

拾遺夷曲集 唐衣橘洲先生撰 四季意雜 神釈 [illegible] 全二冊

狂歌初心抄 同作 [illegible] 全

同 [illegible] 諸白 全 [illegible]

同懐中抄 [illegible] 全

題林詞寄 狂歌閻雲寓抄 [illegible] 全部十冊合巻一冊

[illegible]

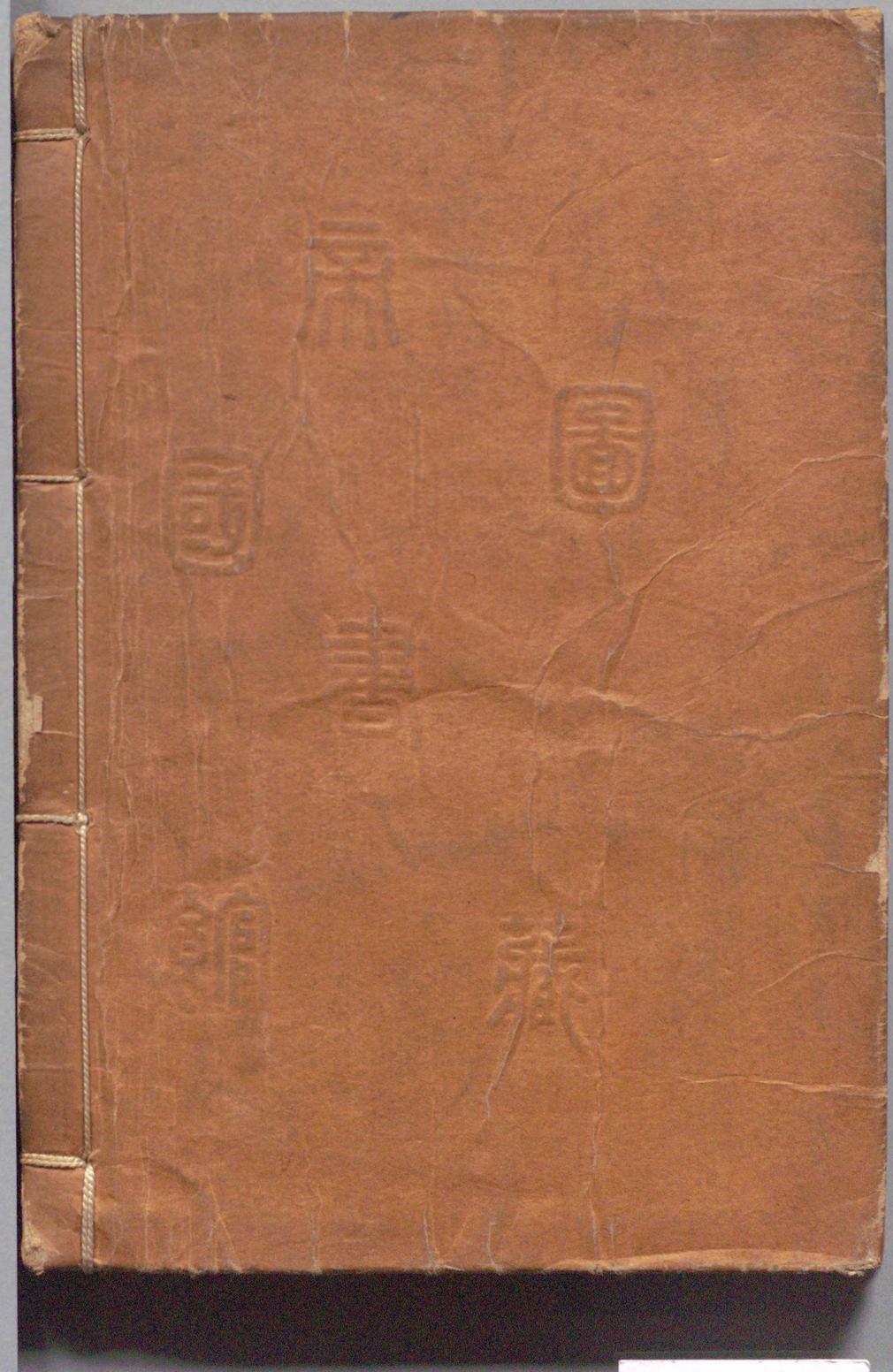
国立国会図書館　狂歌初心抄 208-137

ガラス使用

208
137

国立国会図書館　　狂歌初心抄 208-137

ガラス使用



国立国会図書館　　狂歌初心抄 208-137

ガラス使用